

医療連携センター長就任のあいさつ



令和2年4月より、久留米大学病院の医療連携センター長を拝命しました赤木由人でございます。本院は理念である生命を慈しむとともに、地域社会に貢献できるように尽くしてまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

当院の医療圏は福岡県南を中心とし一部佐賀県や大分県に及んでいます。医療連携センターは、特定機能病院である大学病院と各地域の医療機関との円滑な橋渡しを行い、高度先進医療の継続性の確保と医療情報の共有化を図ることで、地域の医療の発展に寄与したいと思っております。

当センターの業務は『入退院支援』、『連携事務（情報の管理・提供）』、『相談業務（福祉、がん、認知症、経済的、心理的など）』と多岐にわたっておりますが、患者さんや医療機関のお力となるよう努力してまいります所存です。病診連携・病病連携を良好にするには忌憚のないご意見を願いますとところでございます。医療機関、患者さんだけでなくその家族からも満足いただけるよう、職員一同頑張っております。

令和2年7月

久留米大学病院

医療連携センター長 赤木 由人

病院執行部体制

病 院 長	志波 直人
病院長特別補佐	八木 実
副 院 長	鳥村 拓司
	田中 芳明
	渡邊 浩
	福本 義弘
	高須 修
	赤木 由人
	野村 政壽
	上野 知昭

私たちの理念

人と地球にやさしい、^{いのち}生命を慈しむ医療

私たちのめざす医療

- 1. 患者中心の医療**
生命の尊さにもとづき、患者や家族の権利を尊重し、心のかよう医療を行います。
- 2. 共生の医療**
地球環境にやさしい共生の医療をめざします。
- 3. 高度で安全なチーム医療**
安全性を確保し、高度で専門的なチーム医療の確立をめざします。
- 4. 地域と共に歩む医療**
地域医療機関との連携を密にした、継続性のある医療を行います。
- 5. 優れた医療人の育成**
教育機関として高水準の医療技術と思いを備えた医療人の育成に努めます。

TOPICS 1

前立腺がんに対する密封小線源療法+SpaceOAR挿入術

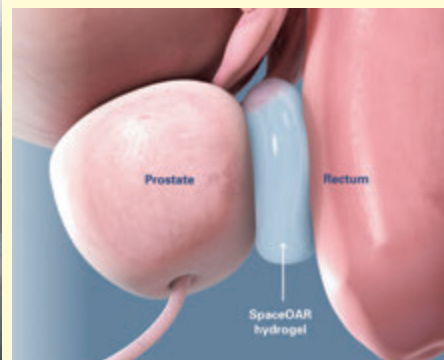
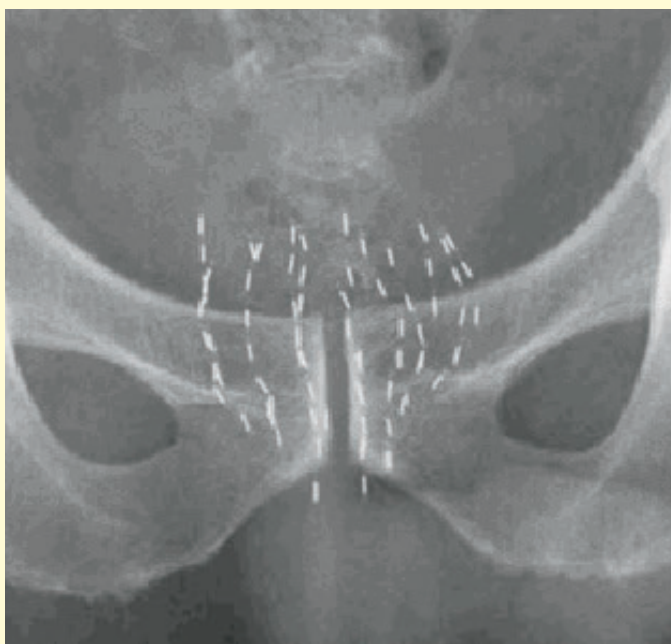
久留米大学泌尿器科 講師 名切 信

前立腺がんに対する小線源治療は、アメリカでは30年以上も前より行われており、日本でも2003年7月に認可され、現在、全国112施設で行われています。当院においては、これまで約500例の治療実績があります。

密封小線源療法とは、放射線を放出する小線源（チタン製カプセルに密封された放射線同位元素ヨウ素125）を前立腺の中に40～100個留置し、内側から放射線をがん組織に直接照射する治療法です。ヨウ素125線源からは数mmの放射線しか届かないため、周囲臓器の線量を最小限にし、排尿障害や性機能障害などの合併症を低減できます。治療成績も、前立腺全摘術や放射線外照射と同等どころか凌駕すると報告されており、入院期間が3泊4日で済むことも当院の大きな魅力です。

また、2019年8月より全国に先駆けて、前立腺と直腸の間にハイドロゲルを挿入するSpaceOAR挿入術を基本的に全例、小線源治療直後に施行しています。このことにより、放射線治療後の直腸障害が少なくなることが期待されています。

現在、当治療については、県内外から多くの紹介をいただいている為、入院までお待ちいただく場合もありますが、可能な限り早急に対応できるよう、また、診療、看護を含めたより良いおもてなしができるよう、精一杯努力してまいります。よろしくお願い申し上げます。



TOPICS 2

消化器病センター長就任挨拶



2020年4月付けで久留米大学病院消化器病センター長を拝命致しました。消化器病センターは1992年6月に外来のセンター制に伴って開設され、今年で28年目を迎えます。当センターでは、上部消化管疾患、下部消化管疾患、肝疾患、胆膵疾患の部門を各々内科と外科に分けて診療を行うとともに、炎症性腸疾患センター、内視鏡センター、肝臓センターも併設することで専門性の高い医療を行っています。前任の鶴田修 教授の御尽力により、受診者数は年々増加の一途を辿っています（2019年受診者数33,587名）。さらに昨年から人工知能（AI）による大腸内視鏡画像解析システムを九州で初めて導入し、より最新の医療を提供できるようになりました。

今後もスタッフ一丸となって、このコロナ危機も乗り越え、消化器病センターさらには久留米大学病院の発展に貢献したいと思っております。

どうぞ御支援の程よろしくお願い申し上げます。

令和2年7月

久留米大学病院

消化器病センター長 光山 慶一

循環器病センター長就任挨拶



久留米大学病院循環器病センターは、内科・外科・小児科の循環器専門医により、循環器領域の高度な医療を提供する役割を有しております。通常診療はもちろんのこと、冠動脈インターベンションのロボット補助PCIなどの高度先進医療も行なっております。

わが国はすでに超高齢社会を迎えており、人口が減少し始めておりますが、循環器疾患患者は今後数十年に渡り、増加することが予想されております。心血管を含めた全身臓器の保護を目指し、患者がより高いクオリティオブライフを維持したまま生活を継続することが我々の責務であると考えます。

今後も、福岡県南の医療を充実させ、皆様と一緒に進んで参りたいと存じます。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和2年7月

久留米大学病院

循環器病センター長 福本 義弘

TOPICS 3

緩和ケアセンター長就任挨拶



久留米大学病院緩和ケアセンターは、緩和ケアチーム、緩和ケア病棟、緩和ケア外来で構成されています。大学病院としては珍しく、緩和ケアチームだけでなく緩和ケア病棟を所有しているのが特徴で、地域がん診療連携拠点病院として高度な緩和ケアの体制を整えています。

がんによる体や心の痛みなどの苦痛を和らげ、ご家族と共に穏やかで有意義な日々を過ごしていただく為の医療を提供していきます。地域の皆様のご期待に添えるよう精一杯努力していく所存です。これからも変わらぬご支援をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

令和2年7月
久留米大学病院
緩和ケアセンター長 平木 照之

集中治療部長就任挨拶



令和元年5月より集中治療部（SICU/HCU）部長を拝命致しました。当部署は主に術後患者を収容する病棟で、特に人工呼吸器・補助循環もしくはそれに準じる管理が必要な患者がSICUに、呼吸・循環モニタリングが必要だが比較的軽症な患者がHCUに収容されます。更に最近は術後に限らず院内発生の急変症例にも対応しています。

本病棟は2017年の「共同指導」、2019年の「病院機能評価；一般病院3」の審査をクリアできたものではありませんが、医療安全の観点から更に検討を重ねる必要があると考え、麻酔科、心臓血管外科、消化器外科、呼吸器外科、その他外科系・内科系の多くの診療科に協力を得ながら運営を行っています。収容患者は多種多様であり常に順調に経過するとは限らず、悩み・戸惑うことも多々あります。各診療科および多職種の知恵を絞りながら重症患者を回復の方向へ導くことができるようにスタッフ一丸となって努力しています。

令和2年7月
久留米大学病院
集中治療部長 光岡 正浩

令和2年9月19日(土)は、システム停止に伴い紹介予約センターを閉所いたします。
ご迷惑をお掛け致しますが、宜しくお願い致します。